

## 第1回 都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会

### 議事概要

日時:平成 31 年2月 19 日(火)8:30~11:00

場所:中央合同庁舎3号館6階都市局局議室

※ 事務局及び3自治体(東京都、大阪市、名古屋市)から資料に基づき説明がなされた。その後、委員はじめ出席者間において、資料等を用いて、以下の意見交換がなされた。

#### [多様性・イノベーション創出に必要な取組]

- 多様な主体の関わりを促しイノベーションが起こるのは「グランドレベル」であり、歩行者量が多いまちほど、経済活動が盛り上がっている。世界的にも自動車中心から歩行者中心に考え方が変化しており、ニューヨークやコペンハーゲンのように都市の「ウォークシフト」をスピード感をもって進める必要がある。オリンピック時に渋谷をホコ天にするなど、象徴的なプロジェクトがあるとよい。
- 再開発では、ゾーニングから「ミクストユース化」を進めていくことが重要であり、米国ポートランドでは、1階に店舗、2~3階にオフィス、4階以上にホテルや住居といった多機能混合が、都市に活力を生んでいる。
- 一方で、駅前一等地に住宅を導入して本当によいのか、周辺住環境との調和などの課題があるなかで、地区計画などにより、具体的にどう実現いくかが問われているのではないか。
- 大規模プロジェクトの検討にあたっては、「人の視点」が忘れられがちであり、地区計画の制度運用も含め、きめ細やかな作りこみが重要になってくるのではないか。
- 都市施設は完成時を最良の状態として設計するのではなく、完成時から価値を「育てていく」考え方に転換が必要ではないか。
- 都市に残る「横丁」の風景は文化財のようなものではないか。この風景を容積移転等によって徹底した防災対応によって残していく方策を検討すべきではないか。
- 日本型MaaSでは、Door to Door の一体的な統合公共交通サービスが模索されている。これを「定額制」とすれば、心理的な負担が軽減し、外出機会の向上につながるのではないか。

#### [多様性・イノベーションの評価軸やメカニズム]

- イノベーションは異種の組み合わせにより生まれるものであり、多様性がなければ創出されない。効率や純化を求めた近代の枠組みから脱し、都市に対する評価軸として、効率性・経済性に加えて、「新しい評価軸」が必要なのではないか。
- イノベーションを促す都市空間、ハードとソフトの融合などが謳われているが、具体的なアクティビティが見えてこない。活動が「可視化」されてくると方策も取りやすいのではないか。
- ネットワーク型、アメーバ型の魅力が生まれている地域は存するが、偶発的に生まれている感もある。少なくとも、最初に生まれた「偶発を継続」させる仕組みが必要ではないか。
- 多様性やイノベーションに係る「指標」をどうすればよいのか。民間やその他の主体に任せるにしても、どう反省するか仕組みがないとうまくいかないのではないか。

### **[地方都市の課題]**

- 若い人たちは「東京のほうが人が面白い」として地方から転出していくようだ。ITが進展しても、色々な人に出会える、人とのコミュニケーションの価値はますます高まっている。
- 地方都市は全体需要が限られている。駅前の開発を進めるために容積率緩和等の規制緩和を進めると、他地域の床需要を吸い上げ、周辺部の衰退を招く恐れがある。

### **[行政と民間の関係等]**

- 行政と民間のスピード感等の違いを乗り越えるため、民間主導型の公民連携が必要。この際、民間事業者と行政の翻訳を行い円滑に繋ぐ「中間組織」が重要。

### **[多様な都市の創出]**

- どの都市も多様性を求めた結果、均質な多様性都市が生まれてしまわないよう、各都市の特徴を意識する必要がある。
- 都市・地域ごとにブランドを確立する必要があるが、そのカギは「歴史的文脈」や短期間イベント開催等による「新陳代謝」ではないか。
- 個別都市内の多様性だけでなく、いろいろな都市があるという意味での「多様性」も重要ではないか。

以上